

国際	7	9	／	経済	10	11
解説						12
商況	基	・	将棋		14	15
スポーツ					18	19
くらし					22	23
童話	「	ミーナの行進	」		24	24
小説	「	にぎやかな天地	」		14	



### 吉野家 24年ぶり赤字

トヨタ、ポイズン・ビル導入検討

英皇太子、結婚の日にさんげへ

「砂の器」野村芳太郎監督 死去

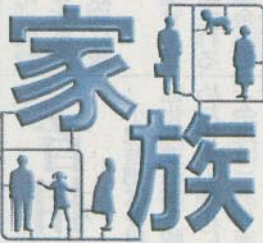
アカモスなどの繁殖地が大幅に減少(自然環境研究センター提供)

午後7時半。東京・日暮里の集合住宅「かんかん森」の食堂に住人が集まってきた。20代の若者もいれば年配者の姿もある。「おはあちゃん、こっち」。中年の女性がお年寄りの手を引いてゆっくり食卓に導いた。

28部屋ある居住部分は一戸一戸分かれているが、食堂やテラスなどは共有だ。食事の準備と共有部分の掃除は当番制になっている。

完成は一昨年6月。プロの住人が気を付けてくれるグラマーの木下孝二さんの(28)、妻の会社員彦坂早苗さん(28)は、「育児に良さを」と入居を決めた。幼い2人の子がいるが、住人の目が届く範囲で子供が遊んでいる間は一息つける。以前の住まいは一軒家。

「近所との関係は薄く、子育てするのに孤立感があつた」と木下さんは話した。会社員守分淑子さん(53)は認知症(痴呆)の母親(80)と2人暮らし。母親は内廊下や食堂は歩くが、他に



### 第2部

成熟社会のきずな ⑤

「近居」選ぶ親子 寄り添い、助け合う。それは元々、家族の姿だった。親と子の間でも、核家族化で離れていた距離が近づきつつある。

都市再生機構が2003年度に新規募集した入居者のうち、近くに親などが住む「近居」のケースは全体の10%。01年度は4%だった。住宅専門誌を発行するリクルートでは「地価下落で住宅購入が容易になり、同居より気兼ねが少ない近居が選ばれている」と説明

# 支え合う暮らし“復活”



近くに住み、支え合う3家族9人。飯島保子さんが夜中に病気で倒れた時には、娘たちが駆けつけた(千葉・幕張で)

「働く母親の増加が近居の増加につながっている」。家計経済研究所の永井暁子次席研究員の分析だ。

「親に葉を渡し、娘を託すと、急いでパートに出かけた。3家族9人が同じ区画で暮らす。まず1996年に由花さんの一家がマンションを購入。両親も2000

は人とのふれ合いがある。「かんかん森」の住人の一人、木村ひろ子さん(60)は老後を過ごす場として、ここを選んだ理由を話す。

「子供に何かあった時に親が助けてくれるから」と、私が動けるんです」。派遣社員美波等さん(44)、之里さん(44)夫婦の一家は、同じ幕張で、妻の両親、夫の兄一家と近居する。3世帯は互いの家の鍵を持ち合う。

「近居」選ぶ親子 寄り添い、助け合う。それは元々、家族の姿だった。親と子の間でも、核家族化で離れていた距離が近づきつつある。

「近居」のケースは全体の10%。01年度は4%だった。住宅専門誌を発行するリクルートでは「地価下落で住宅購入が容易になり、同居より気兼ねが少ない近居が選ばれている」と説明

「働く母親の増加が近居の増加につながっている」。家計経済研究所の永井暁子次席研究員の分析だ。

「子供に何かあった時に親が助けてくれるから」と、私が動けるんです」。派遣社員美波等さん(44)、之里さん(44)夫婦の一家は、同じ幕張で、妻の両親、夫の兄一家と近居する。3世帯は互いの家の鍵を持ち合う。

「近所との関係は薄く、子育てするのに孤立感があつた」と木下さんは話した。会社員守分淑子さん(53)は認知症(痴呆)の母親(80)と2人暮らし。母親は内廊下や食堂は歩くが、他に

「部屋ではブライパシーが守られるし、部屋の外に呼ばれ、日本では、阪神大震災後に被災者用の復興住宅として登場。一般向けに東京、大阪、福岡などへと広がっていった。

「部屋ではブライパシーが守られるし、部屋の外に呼ばれ、日本では、阪神大震災後に被災者用の復興住宅として登場。一般向けに東京、大阪、福岡などへと広がっていった。

「部屋ではブライパシーが守られるし、部屋の外に呼ばれ、日本では、阪神大震災後に被災者用の復興住宅として登場。一般向けに東京、大阪、福岡などへと広がっていった。

「部屋ではブライパシーが守られるし、部屋の外に呼ばれ、日本では、阪神大震災後に被災者用の復興住宅として登場。一般向けに東京、大阪、福岡などへと広がっていった。

「部屋ではブライパシーが守られるし、部屋の外に呼ばれ、日本では、阪神大震災後に被災者用の復興住宅として登場。一般向けに東京、大阪、福岡などへと広がっていった。